

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

215

業務指導事務

[長期総合計画]

分野別目標	1	安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
政策	1	地域を支える既存産業の振興
施策	1	地域を支える既存産業の振興
取組方針	3	地域の生活を支えるサービス産業の生産性向上

事業区分(1)	事業経費		管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	卸売市場事業特別会計		
	款	卸売市場費		
	項	卸売市場費		
	目	卸売市場費		
	大事業	卸売市場事業		
	中事業	業務指導事務		

事業種別	継続		関連個別計画	和歌山市中央卸売市場戦略的行動計画		
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	中央卸売市場	嶋本多佳彦 431-3161
事業実施の根拠法令	卸売市場法・和歌山市中央卸売市場業務条例		関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	卸売市場法、和歌山市中央卸売市場業務条例等に基づき中央卸売市場の適正かつ効果的な業務運営を行うための検査及び指導監督を行う。		中央卸売市場業務指導に要する経費			
事業内容	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	業務の許可、承認等 市場業者の経営改善 市場情報の提供	業務の許可、承認等 市場業者の経営改善 市場情報の提供	業務の許可、承認等 市場業者の経営改善 市場情報の提供	業務の許可、承認等 市場業者の経営改善 市場情報の提供	業務の許可、承認等 市場業者の経営改善 市場情報の提供	業務の許可、承認等 市場業者の経営改善 市場情報の提供

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成30年度		平成31年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	14,663	10,454	15,613	17,824	15,334	19,739	19,135	0	19,135	0
伸び率(%)	△12.9%	△33.2%	6.5%	70.5%	△1.8%	10.7%	24.8%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	20,780	21,019	28,753	26,820	29,460	36,148	37,103	0	37,103
	正規職員以外	5,461	7,929	3,057	4,750	3,966	4,139	4,139	0	4,139
	小計	26,241	28,948	31,810	31,570	33,426	40,287	41,242	0	41,242
国庫支出金	460	181	500	200	572	5,834	300	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	1,100	800	0	0	0	0	0	0
その他	12,834	9,630	12,512	11,677	13,099	15,982	16,187	0	0	0
一般財源(税等)	1,369	643	1,501	5,147	1,663	△2,077	2,648	0	19,135	0
所要人数(人)	正規職員	2.60	2.63	3.57	3.33	3.70	4.54	4.66	0.00	4.66
	正規職員以外	2.30	2.30	1.34	2.16	1.83	1.91	1.91	0.00	1.91
主な予算内訳	機械等借上料 9,295千円、会計年度任用職員報酬 3,181千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
業務検査(卸売業者3社)及び財務検査(卸売業者3社、仲卸業者10社)		件	目標値	16	16	16	16	16
			実績値	16	16	16		
			達成度(%)	100%	100%	100%	%	%
青果取扱量		トン	目標値	80000	80000	74000	74000	74000
			実績値	53811	54872	52264		
			達成度(%)	67.3%	68.6%	70.6%	%	%
水産取扱量		トン	目標値	30000	30000	20000	20000	20000
			実績値	13838	13518	13458		
			達成度(%)	46.1%	44.9%	67.3%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	中央卸売市場は開設以来45年余りが経過し、再整備を進めているところである。市場を取り巻く流通環境が大きく変化するなかで、青果の取扱量は概ね横ばいで、水産の取扱量は減少傾向にあるため、今後、本市場全体の体質強化を図る必要がある。
見直し・改善内容	平成23年度に市場の現状と課題を再確認し施設整備を含めた「経営展望書」を策定。(中央卸売市場経営展望策定事業) 平成24年度に課題の克服に向けた「行動計画書」を策定。(戦略的行動計画策定事業) 今後の卸売市場は、食品等の流通の合理化及び適正化に関する法律に基づき農林水産大臣から認定を受けた食品等流通合理計画にそって、その機能及び役割を更に充実させる必要があるため、流通に関する分析・研究を重ね、本市場の活性化に向けて取り組んで行く。